

決算総括質疑



日本共産党
わたなべ くにたか
渡辺 訓任

公共施設整備には
一定の財政規律が必要

Q 子どもの権利への理解の広がりや教育委員会や関係部署の連携の状況はいかがか。

A こども会議のファシリテーター養成を進め、条例策定後もこども会議は継続の予定。こども支援課が総合教育会議に参加するなど、福祉・子育て・教育の関係各課での研修や連絡会議を行っている。

Q 健全な財政運営と公共投資の両立は実現したのか。将来の暮らし・教育に新庁舎整備による債務増加の影響への心配が町民の間にある。

A インフレ下で上限額は変動する。指標として、実質公債費比率12.5%、将来負担費率は100%以内に抑え、大型事業についての実施時期の見直し等を通し、財政の健全性を確保する。

Q 災害関連死ゼロを目指し、T K B（トイレ・キッチン・ベッド）の整備はどの程度進んだか。担い手育成で地区での違いはどうか。

A 国支出金も活用し、避難所の多目的ベッド・組立式給水タンクなどを整備した。避難所へのスフィア基準の適用を考慮している。防災フェアの催しを利用し若い人の参加を促すなど、全体の底上げを図る。受援体制の充実を重視する。

Q 生活道路の改修が当初予算どおりでない部分もある。空家対策や耐震補強などを含めた住環境の整備は進んでいるのか。

A 国補助金の交付率が下がり、影響が出ている。空家相談をとおり、活用を図っている。

Q ゼロカーボンシティ実現へは、施策の柱を示す必要がある。施策は進んでいるか。

A 物価高騰対応も含めLED照明への買換促進等を進めた。令和8年度、電動アシスト付き自転車の購入を補助。今後も、様々な取り組みを通じ、幅広い町民の意識向上を図る。



スフィア基準達成を目指し、避難所で間仕切り・テントを建てる訓練



無所属
いちいし ひろこ
一石 洋子

多様な住民の資源を結集
するまちづくり協議会を

Q 社会は激変する。黙示録のようなネパールの激甚被害もあった。気候変動や国際関係と長期的な政策課題に非力な進歩しか見せられない人間社会。にのみや学園の子ども達、そして若者たちが多様な住民力と出会い、世界課題と直結する地域課題を切り開きながら、コト、モノを作る場が必要。町長が一期目から「住民力の町」と訴えたように二宮の子どもたちを育てる力をしっかりと見せていきたい。まちづくり会社機能の開拓は、部活動地域移行のインセンティブになる。

A 環境面では団体、保護者、教員の協力で実現している部分がある。交流をつなぐ結節点を持ち、テーマごとに住民主導のミニフォーラムをこの町の宝であるラディアンで展開する。職員も入りながら解決策に結び付ける。そして未来のまちづくりを一緒に模索し、構築したい。

Q にのみや気候市民会議のすばらしさはいまだに町民に伝わっていない。職員と住民ファシリテーターの熱意、気運が参加者に伝わり、一人一人が同じ町に住む仲間として信頼と共感をもって語り合えたこと。これが政治・まちづくりの基盤だ。社協が小学校区の協議体を作ってきたが、子育て世代、若者、多様な特色を持たれるメンバーが地域福祉、治水、防災など縦割りにせず地域課題と資源を共有し、対話することが重要。

A 防災テーマの協議会は重要。新庁舎とラディアンのつながる通路を町民の皆様でシンボリックに雨庭にしていく。生物多様性、流域治水等もテーマごとにいろいろな町民の様々な専門家含め、こども目線の声もしっかり受け止めていく。参加をつなぎ合わせるコーディネートに行政がサポートしながら果たすべきことを追及する。



にのみや気候市民会議（町民・事業者・行政で地球温暖化対策の取組をまとめた）



無所属
は ま い な お ひ こ
浜井 直彦

決算から問う村田町政の 実行力と将来への責任

Q 大型3事業の再開を今後どう判断するか。

A 実質公債費比率と将来負担比率が共に町独自の目標値を超えないと確認できた時点でラディアン、(仮称)福祉会館、駅前複合施設の優先順位を検討し、事業実施を判断する。

Q にのみや学園の施設一体化はいつなのか。

A 2040年を目安に5校を1つにする。まず学校の単級化の解消に取り組み、途中のロードマップを具体的に示し、保護者、地域、子どもたちと意見交換を重ねながら進めたい。

Q 現庁舎の停電時の設備に問題はないのか。

A 非常用発電機は正常に作動した。一方、執務室内に設置された避難誘導灯の一部が、停電時に点灯しなかったことは事実。設備の状況を点検し、必要な対応を検討していく。

Q LED照明補助の課題と改善策とは何か。

A 令和7年度の制度には使いにくい部分があり、設計時の見立てが合わなかったと反省している。玄関外の照明など補助対象の範囲に関する意見を、今後の制度設計に生かしたい。

Q 袖が浦プール・公園再整備が進まないが。

A 来年度に公共施設総合管理計画の見直しで、憩いの空間の具体的なイメージパースなどを示し、地域の皆さんに改めて意見を伺いたい。

Q 町公式LINEの意見投稿はどうなるか。

A 令和7年度の実装は見送った。匿名投稿の返信などの課題があり、手軽で責任を持って返答できる方法を研究する。答えはまだない。

Q 松浦地下道の豪雨時の安全対策はどうか。

A 排水ポンプを年4回点検。約15年前には1回冠水した。原因はブレーカーの不具合。大雨時はパトロールし、稼働状況を確認する。



越地地区JR下のアンダーパス (松浦地下道)。
排水ポンプ機能点検は年4回実施

議員提出議案

- (議員提出議案第3号) 特別市の法制化反対を
求める意見書 全員一致で可決

現在「特別市」構想が、国の地方制度調査会で議論されている。特別市とは、横浜市、川崎市などの政令指定都市を県から独立させて、都道府県と同列となる自治体にするものだ。

横浜・川崎・相模原市などの特別市に神奈川県
の権限や財源が移譲された場合、現在900万人の県
の事業を300万人で支えることになる。インフラ整
備や教育・社会保障での補助金など、県からの補完・
支援が減少することが想定されるので、二宮を含
めた町村部の住民サービスの大幅な後退が懸念さ
れる。

そのため、国に対して特別市の法制化に反対す
る趣旨の意見書が、各自治体から出されている。

二宮町議会も意見書を国及び県に提出した。

- (議員提出議案第4号) 子どもの「生命を守ら
れる権利」に基づく諸施策を国及び県に求める
意見書 賛成少数で否決 (6:7)

提出者：一石洋子

賛成者：小林幸子、小笠原陶子、古谷健司

声を上げられない子どもの生きる家庭、地域、保
育、教育の現場について本質的な課題、ニーズの調
査、権利擁護体制、性的虐待へのワンストップケ
ア支援センターの拡充、子どもの死亡の前例報告
と検証制度、成育環境の科学的検証成果を生かし、
子どもの生命にとって最も良い保育、療育、教育
施策の推進、子宮頸がんワクチン等新種のワクチ
ンの健康被害を訴える子どもたちについて、原因
究明と必要な支援を進めることを求めるもの。

賛成討論

- ・年間500人を超える子どもの自殺の半数が原因不
明。原因を明らかにし、対策を求めたい。(渡辺)
- ・生き続け成長しその能力を最大限に伸ばせる施策
をし、日本全体の情報連携に繋げるべし。(根岸)

反対討論

- ・提出者の「子供を含む不正臓器取引防止の陳情
に反対した姿勢」と本議案は相いれない。(松崎)

人 事

討論は表紙にQRコードあり

- (議案第49号) 固定資産評価審査委員会委員の
選任 任期3年 全員一致で同意

くつかけ ゆ み こ
沓掛 由美子 (二宮)

- (議案第50号) 教育委員会委員の任命 任期4年
全員一致で同意

やぎ さちこ
八木 幸子 (一色)